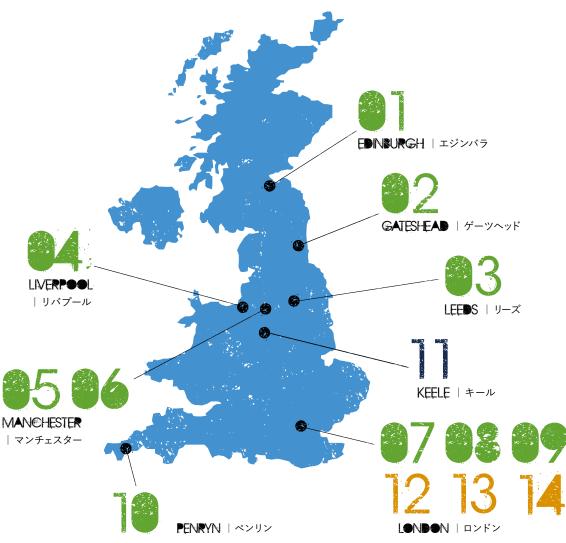


ARTS FOR AGEING SOCIETY

高齢社会における 文化芸術の可能性



文化芸術機関

- Luminate ルミネイト
- 2 Equal Arts 13-11.7-1
- National Museums Liverpool ร่องร่าน เร็ว จักนั้น บหาวี่ ม
- **●5** The Whitworth / Manchester Museum, The University of Manchester マンチェスター大学 ウィットワース美術館/マンチェスター博物館
- Manchester Camerata マンチェスター・カメラータ
- Sadler's Wells サドラーズ・ウェルズ
- Wigmore Hall ウィクモア・ホール

研究機関

II Keele University キール大学

政策・助成機関

- 12 The Baring Foundation ベアリング財団
- **13** Calouste Gulbenkian Foundation カルースト・グルベンキアン財団
- Arts Council England アーツ・カウンシル・イングランド

2020年までに人口の約30%が65歳以上になると予想され、急速に少子高齢化が進む日本。生産人口の減少、医療費の増大に加え、認知症患者の増加、介護者の疲弊、老人の孤立などさまざまな課題が浮かび上がっています。その中で、いかに健康寿命をのばし、人々が長寿で幸せな人生を送ることができるのか、国や地方自治体だけでなく民間主導で分野を横断したさまざまなアクションがはじまっています。

日本と同様に少子高齢化が急速に進んでいる英国では、ここ数年、文化芸術団体により高齢者を対象に多様な取り組みが展開されています。例えば、ナショナル・リバプール・ミュージアムは、コレクションを活用し、認知症の方とその介護者を対象にしたプログラム「ハウス・オブ・メモリーズ」を実施。マンチェスターを拠点とする室内管弦楽団、マンチェスター・カメラータは、演奏家が音楽療法士と連携しながらケアホームの高齢者を対象に曲作りのプログラムを展開するほか、大学機関とも連携してプログラムの効果検証も行っています。こうした文化芸術機関による取り組みは、医療や福祉といった既存のサポートに加えて、高齢社会の課題に新たな切り口でアプローチできるものとして注目が集まっています。

日本においても、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にあらゆる人が芸術文化に親しめる環境作りや、文化芸術機関の社会的役割を再考する動きが広まり、少子高齢社会に向けた取り組みへの関心も高

まってきています。そこで、ブリティッシュ・カウンシルは、 英国において高齢者を対象にした先駆的な取り組みを行っ ている美術館や劇場、NPO、助成機関など14の文化芸術 団体の関係者を招き、2015年4月13日から17日まで日本に おける視察プログラムを実施します。日本滞在中、文化芸 術、福祉、医療、ビジネスなど多様な分野の方々と意見交 換を行うほか、芸術のジャンルやセクターの枠組みを超え て、高齢者を取り巻く状況や文化芸術の持つ可能性につい て議論を深め、今後の日英の連携の可能性を探ります。

本冊子では、今回の来日プログラムに参加した14の団体の概要と彼らが展開する高齢者に向けた取り組みをご紹介します。今回のプログラムを機に、日英の文化芸術関係者が互いの知識や経験を共有しながら、グローバルな課題である高齢化の問題にアプローチするような新しい協働プロジェクトが生まれていくことを願っています。

Arts for Ageing Society: Japan Study Tour 高齢社会における文化芸術の可能性: 日本視察ツアー

期間 | 2015年4月13日[月] — 4月17日[金] 主催 | ブリティッシュ・カウンシル 助成 | ベアリング財団 カルースト・グルベンキアン財団



Luminate

www.luminatescotland.org

Causewayside House, 160 Causewayside, Edinburgh, EH9 1PR

ルミネイト

▼スコットランドで毎年開催される高齢者のためのフェスティバル『ルミネイト』。あらゆる人が年齢を重ねることの意味を探究する機会を提供することを目的に、2012年10月スコットランド全域ではじまった。高齢者が創造力を発揮し、彼らの人生を共有する、ダンス、演劇、音楽、美術、工芸、メディア、アウトリーチなどの幅広いプログラムを実施している。プログラムには高齢者が参加者/観客の双方として参加できるアートプロジェクト、世代を越えた創作活動、高齢のアーティストによる作品、介護を受ける人々に向けた、また、そうした人々と共に作り上げるプロジェクト、高齢化社会の意味を問いかける活動などが含まれる。2014年にはシェトランド諸島を含むスコットランド全域で435にのぼるイベントが開催された。『ルミネイト』の創始パートナーであるベアリング財団、クリエイティブ・スコットランドは、現在もフェスティバルを継続的に支援している。▲



実施事業

Let Me Stay [レット・ミー・ステイ]

アルツハイマー病を取り巻くある家族の体験を追った、ジュリー・マクナマラによるユニークで温かな一人芝 居の巡回公演。

Journey [ジャーニー]

31歳のベルギー人振付家/パフォーマーのクン・デ・プレテーと87歳のダンサー/教師のアルフェア・プジェの二人が舞台に立つ美しいダンス作品。

You Said You Liked The Dancing [あなたはこのダンスが好きだといった]

振付家ジャニス・パーカーが、スターリングに暮らす認知症の人々とその介護者と共に制作したインスタレーション作品。

All or Nothing Aerial Dance Theatre [オール・オア・ノッシング・エアリアル・ダンス・シアター] グラスゴーでのワークショップ・シリーズで、スコティッシュ・バレエ団による『リジェネレイト』 プログラム に参加した高齢ダンサーたちが空中ダンスに挑戦。

The Falkirk Cabaret 「フォールカーク・キャバレー」

『ルミネイト』の閉幕プログラムの一部でもあった合唱イベントのリハーサルに、コーラスディレクターのスティーブン・ディーズリーを招き、二つの介護施設と50歳以上の人々のソーシャル・グループと共に実施。

その他

アーティストのジョウ・ホッジズとデニス・ジガドロがダンフリースの女性たちと協働し、更年期の体験をテーマにした展覧会を開催。

アーティストのディアドラ・ネルソンがグラスゴーに暮らす認知症の人々とのコラボレーションでテーブルマットとコースターをデザイン・制作。作品は彼らのデイケア施設で使われているほか、芸術活動の継続資金を 集めるために販売もされている。

*以上、ルミネイト2014年の参加プロジェクトより紹介



▲ Photo | Eoin Carey

アン・ギャラハー | Anne Gallacher

ルミネイト ディレクター



スコットランド生まれ。英国の文化セクターで25年を超える経歴を持つ。スコットランド炭坑博物館、アバディーン・インターナショナル・ユース・フェスティバルを経て、バーミンガム市のミュージアム・アーツ部門に就任。その後、ウェストミッドランズ・アーツ(現アーツ・カウンシル・イングランド、ウェストミッドランズ)で政策官を務め、バーミンガム・ロイヤル・バレエの教育ディレクターに着任。2005年にクロア・カルチュラルリーダーシップ・フェローとなる。ワットフォード・パレス・シアターのエグゼクティブ・ディレクターを経て、アーツ・カウンシル・イングランド、チャイニーズ・アーツ・センター、フェニックス・アーツ・センター、バレーボーイズ、ロイヤル・オペラ・ハウスをはじめとする幅広い機関のコンサルタントを3年間務める。2012年1月『ルミネイト』立ち上げのため、スコットランドへ。複数の芸術団体の理事を歴任し、現在はスコティッシュ・バレエの理事、スモールプティクライン・ダンス・カンパニーの会長を務める。



▲ Photo | Drew Farrell



Equal Arts

www.equalarts.org.uk
Swinburne House, Swinburne Street, Gateshead, NE8 1AX

イコール・アーツ

▼イコール・アーツは、高齢者にアートをより身近に感じてもらい、芸術活動に積極的に参加してもらうことを目指す非営利団体。さまざまな参加型のアート・プロジェクトを通して高齢者の孤立を防ぐ活動をしている。

また、「クリエイティブ・エイジング」を促進するための研究を支援するとともに、パートナー機関と連携し、クリエイティブ・エイジング、芸術、認知症といったテーマに対する関心と理解を深めるための取り組みも行っている。介護施設が、創造的なプログラムを取り入れられるよう、介護スタッフを対象にさまざまなトレーニング・プログラムも実施している。▲



実施事業

Meet me @ the National Glass Centre [ナショナル・グラス・センターで会いましょう] 認知症患者とその介護者がグラス作りに参加するプログラム。

Creativity Matters [創造性が大切]

ミュージシャン、ダンサーと介護施設のボランティアが協力して行う5年間のダンス・音楽プログラム。

Creative Ageing Network [クリエイティブ・エイジング・ネットワーク]

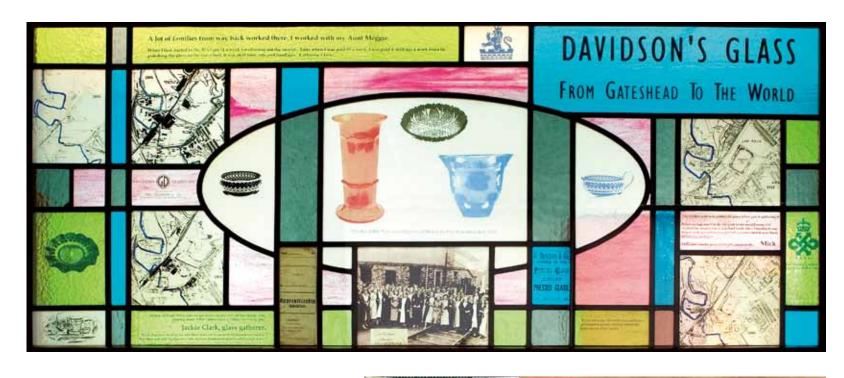
アーティストが主導する介護スタッフ向けトレーニング。

Hen Power [ヘンパワー]

介護の現場で「ニワトリ (hen)」を使った創造的活動。

Creative Age Challenge [クリエイティブ・エイジ・チャレンジ]

7つの文化芸術機関(バルティック現代美術センター、ナショナル・グラス・センター、ミドルズブラ近代 美術館、ベリック・モルティングス、ブラックウェル館、アボット・ホール美術館)と共に、各機関におけ る認知症患者とその介護者向けのサービスやプログラムを開発。



アリス・スウェイト | Alice Thwaite

イコール・アーツ ディレクター

1990年代に高齢者を対象とした取り組みを専門に行う団体「イコール・アーツ」を立ち上げた、英国におけるクリエイティブ・エイジング分野の先駆者。2010年にはウィンストン・チャーチル記念財団の研修奨励金を受けてアイルランドおよび米国を巡り、優れた事例について調査。2011年、ウィンストン・チャーチル記念財団とベアリング財団の共同プログラムにおいてコーディネーターを務めた。この分野の優れた事例の紹介に積極的で、過去にはテート・モダンでの講演、英国王立アカデミーとの協働、ニューヨーク近代美術館でのプレゼンテーションなどに取り組んでいる。介護における基本的人権としての個人の尊厳を訴える「Dignity Champion」にも登録。「認知症と想像力」について調査する全英規模の3年間の研究プロジェクトチームにも参加している。







West Yorkshire Playhouse

www.wyp.org.uk
Playhouse Square, Quarry Hill, Leeds, LS2 7UP

ウェスト・ヨークシャー・ プレイハウス

▼英国最大規模を誇る劇場であるウェスト・ヨークシャー・プレイハウス (WYP) は、過去25年にわたって300以上ものパワフルで、活力溢れる演 劇作品を制作、発表している。これまでに400万人を超える観客が作品を 観劇し、何千もの人々が、創造性を刺激するワークショップやコミュニティ 活動、教育プログラムに参加している。WYPの活動は劇場内にとどまらず、 その取り組みは、英国内、また国際的にも高く評価されている。コミュニティ と教育の専門家14名からなる芸術開発チームは、あらゆる年齢層、経歴、 能力の人々が芸術に触れる機会を創出しており、劇場は学びの場としても発 展を続けている。若者専用のスペースでは特殊教育を提供するほか、学習 障害のある人々のための幅広いプログラムも行っている。また、難民や亡命 者と共に行う活動によって、世界で初めて「サンクチュアリ(安全な避難場所) の劇場しとなった。そして高齢者との活動は、この分野をリードするものと して評価され、週に1回行われるプログラム『ヘイデイズ』は、劇場による 定期的な高齢者参加プロジェクトとしては、英国最大規模を誇る。クリエイ ティブな参加型プログラムや認知症フレンドリーな公演などの認知症の人々と の活動は、劇場にとって欠かせないものとなっている。▲



実施事業

Heydays [ヘイデイズ]

2015年に25周年を迎える劇場の主要プログラム『ヘイデイズ(Heydays:全盛期の意)』。55歳以上の人々を対象に週に1度行われるこのクリエイティブ・プログラムは、高齢者が創造性を最大限発揮できる場を提供。300人以上が参加している。

http://www.wyp.org.uk/join-in/adult-and-communities/heydays/

http://www.wyp.org.uk/media/77460/HEYDAYS SPRING 2015.pdf

https://www.youtube.com/watch?v=LIOxKg8Ym-8

https://www.youtube.com/watch?v=vIr9K-0AUYU

Dementia-friendly theatre — Our Time (creative participation)

「認知症フレンドリーな劇場 ― 私たちの時代(創造的参加プログラム)]

2010年から、認知症の人々とその家族のための特別なクリエイティブ・セッションを実施。 創造的表現、コミュニケーション、友好関係へのサポートがプラスの効果をもたらしている。

Dementia-friendly performances [認知症フレンドリーな公演]

2014年初め、WYPは一般の舞台作品を、認知症の人々向けに翻案する手法について検討を開始する。この取り組みはアーヴィング・バーリンのミュージカル『ホワイト・クリスマス』の上演に結実し、この英国初の「認知症フレンドリーな公演」を400人以上が鑑賞した。

スタッフ向けトレーニングを実施し、高齢者・認知症の人々のストーリーを積極的に共有していくことで、認知症フレンドリーな劇場として絶え間ない進化を続けている。

http://www.wyp.org.uk/about-us/our-blogs/back-stage-blog/dementia-friendly/dementia-friendly-white-christmas/

https://www.youtube.com/watch?v=YNRePvLZKt8

http://www.wyp.org.uk/media/5077646/dementia-friendly_white_christmas_letter.pdf



ニッキー・テイラー | Nicky Taylor

ウェスト・ヨークシャー・プレイハウス コミュニティデベロップメント・マネージャー

介護施設とコミュニティで、20年にわたり高齢者に関わる仕事をしてきた経験を持ち、芸術、健康、福祉を重視した取り組みを行っている。コミュニティ開発責任者(Community Development Manager)として、人々を芸術と結び付ける革新的なプログラムを開発。学習障害のある若い観客のニーズに合わせて一般向けの演劇を翻案した『Relaxed Performances(くつろいだパフォーマンス)』を先駆的に始め、さらに、認知症と共に生きる人々のための創造的芸術プログラムを開発。また、参加型アートプロジェクト『Heydays(ヘイデイズ)』を指揮している。2010年には、認知症の人々が演劇の世界を、小道具と衣装、詩と歌、物語とパペットを通して探索できる新たなプログラムを立ち上げた。プログラムでは参加者のスキル、意見、経験が尊重、歓迎され、それが自信を高め、友好を深める機会となる。また劇場スタッフが認知症についての理解を深め、劇場における認知症の利用者の経験をより良いものにできるようサポートしている。さらに英国で初めて、一般向けの演劇を「Dementia Friendly Performance(認知症フレンドリーな公演)」に翻案することを試み、その指揮を取った。テイラーはリーズ認知症アクション同盟(Leeds Dementia Action Alliance)の運営グループのメンバーでもあり、これまで数多くの芸術と認知症に関する講演を行っている。現在はブラッドフォード大学で科学修士(認知症研究)の課程を終えるところである。2014年にはウィンストン・チャーチル記念財団の奨学金を受け、北米とオーストラリアにて芸術と認知症について調査し、事例を共有した。





National Museums Liverpool

www.liverpoolmuseums.org.uk 127 Dale Street, Liverpool, L2 2JH

ナショナル・ミュージアムズ・ リバプール

▼ナショナル・ミュージアムズ・リバプール(NML)は、国際奴隷博物館、レディ・リーヴァー美術館、マージーサイド海洋博物館、リバプール博物館、サドリー・ハウス、ボーダー・フォース・ナショナル・ミュージアム、ウォーカー・アート・ギャラリー、ワールド・ミュージアムの8つの施設で構成されている。収蔵コレクションは、印象派の絵画から自然史の標本、タイタニック号の遺留品まで、ヨーロッパの中でも非常に重要で多様性に富んだもので、毎年270万人以上の来館者が訪れる。イングランド内でロンドン以外に拠点を置く唯一のナショナル・ミュージアムである。

リバプール及びマージーサイド地域の主要なミュージアムとしての活動、 ノース・ウェスト・イングランド最大の文化機関としての活動に加えて、英国 全土、さらには国際的にも波及力のある活動と、4つの特徴的な役割を担っ ている。

NMLは、社会的に公正であることを目指し、市民から資金を得ている機関として、全ての市民に質の高いサービスを提供できるよう努めている。▲



実施事業

House of Memories [ハウス・オブ・メモリーズ]

NMLは、人々の個人的な歴史と記憶を認め、理解することは、特に認知症を患う人々にとって非常に価値と意味があると認識している。『ハウス・オブ・メモリーズ』は、社会的包摂をミッションとして掲げるNMLにとって重要なプロジェクトである。2012年にスタートしたこのトレーニング・プログラムは、認知症に対する正しい理解を広め、ミュージアムのコレクションを活用する革新的な方法を介護セクターに提供している。このプロジェクトは、介護において思いやりや尊厳、敬意の必要性とその価値についての理解を促進し、健康と福祉の向上を実現し、認知症を患う人々とその介護者や家族を支援することを目指している。

博物館や美術館は、昨日のものから一千年前のものまで、記憶を大切に守ることに長けている。『ハウス・オブ・メモリーズ』のユニークなアプローチは英国でも初めての試みである。博物館や美術館、医療や介護の提供者が協力しながら、コミュニティが一丸となり認知症に対する理解を高めていくプロジェクトである。個人の歴史や人生にまつわる物語が、良好なコミュニケーションのための重要なツールであることが理解できるようにデザインされており、具体的には以下のアクティビティが展開されている。

Suitcase of Memories [スーツケース・オブ・メモリーズ] | さまざまなオブジェクト、思い出の品や写真などを使って会話を促すよう工夫されている。それぞれのスーツケースには、多様なレベルの知覚能力を持つ人の嗅覚、聴覚、触覚など多感覚を刺激するアイテムが含まれている。たとえば特定の地域に関するリソース、世代間の比較ができるようなリソース、アートをテーマにしたリソースなど。

My House of Memories [マイ・ハウス・オブ・メモリーズ] | iPadやその他のタブレット型端末のためのデジタル・メモリー・リソース。NMLと認知症を患う人々によって共同制作されたもので、この種のものとしては世界初。リバプール及び英国全域に関する記憶と関連性のある多様なコンテンツにアクセスできる。アプリはさまざまな時代の品物をブラウズすることが可能で、音楽と映像によって生き生きと表現され、日々の思い出や行事などについて語り合うきっかけになるようデザインされている。アプリをパーソナライズし、自分だけのデジタル・メモリー・ツリーにアイテムを保存できる。アプリにはまた、家族や医療・介護の支援者のためのアドバイスや情報が含まれている。

PROSPECTIVE VIEW 将来的展望

NMLは『ハウス・オブ・メモリーズ』に無限の可能性を見いだしている。次なるステップでは、ノース・ウェ スト・イングランドおよび英国全土と海外の新しいミュージアム・パートナーとともにトレーニング・デーや スーツケース、アプリ機能のカスタマイズを目指している。



視察プログラム参加者

エグゼクティブ・ディレクター



ナショナル・ミュージアムズ・リバプールの8つの施設のすべてにわたる教育及びコミュニティに向けた活動を取り まとめ、来館者サービス、資金調達、マーケティング及びコミュニケーション部門も統括する。2003年にヘッド・オ ブ・ラーニングとしてナショナル・ミュージアムズ・リバプールに参加。2005年にはエグゼクティブ・ディレクターに就 任し、来館者向けサービスを含む任務を担うようになる。最近では戦略的資金調達及びマーケティングも担当。 2015年1月には『ハウス・オブ・メモリーズ』での功績が認められ大英勲章MBEを授与された。





The Whitworth / Manchester Museum, The University of Manchester

www.whitworth.manchester.ac.uk
The Whitworth, The University of Manchester, Oxford Road,
Manchester, M15 6ER

www.museum.manchester.ac.uk

The Manchester Museum, The University of Manchester, Oxford Road, Manchester, M13 9PL

マンチェスター大学 ウィットワース美術館 / マンチェスター博物館

▼マンチェスター博物館は、人類の歴史や自然史に関するコレクションを有し、年間40万人以上の来館者を迎える博物館である。工費1,500万ポンド(約26億6000万円)の改装を経て近年再オープンしたウィットワース美術館は、公園内に位置し、国際的にも重要なアートコレクションを持ち、独自性の高い展覧会を実施すると同時に教育の機会を提供している。マンチェスター博物館およびウィットワース美術館が展開するラーニング・プログラムは高く評価されており、これまでに「クロア・アウォード」はじめ数々の賞を受賞している。現在博物館は宝くじ基金から50万ポンド(約8,870万円)の資金提供を受け、社会的に孤立した人々を対象に、市全域でのボランティア・プログラムを主導。またウィットワース美術館は"参加"と"ウェルビーイング"をテーマに、公園を舞台に、アート、自然、そして人々をつなぐ方法を模索する新しいプログラム「カルチュラル・パーク・キーパー」を立ち上げた。▲



実施事業

Age Friendly Manchester Culture Champions

「高齢者にやさしいマンチェスター・カルチャー・チャンピオンズ」

マンチェスターの高齢者を対象にしたボランティアベースでのアンバサダー制度。マンチェスターの高齢者の方々がより文化芸術に接する機会を増やすため、120人を超えるカルチャー・チャンピオンが、同世代の仲間に向けた活動を計画、主導、発信する。

Coffee, Cake and Culture [コーヒー、ケーキ、文化]

認知症患者とその家族や介護者を対象に、博物館訪問をフルサポートする月例プログラム。

Dementia friendly museum / gallery training programme

[認知症にやさしいミュージアム/ギャラリー訓練プログラム]

来館者に携わるスタッフを対象にしたトレーニング・プログラム。

Museum Comes to You [出張ミュージアム]

認知症支援組織などとのパートナーシップにより、マンチェスター博物館のコレクションを介護施設やコミュニティの人々が集う場に持ち出して、地域社会の人々が触れる機会を提供するアウトリーチ活動。

Age Collective seminar [エイジ・コレクティブ・セミナー]

エイジフレンドリー・ミュージアム・ネットワークに関わるチームとMICRA(Manchester Institute for Collaborative Research on Ageing)とのパートナーシップにより、研究者、臨床医、政策立案者、ミュージアム職員、高齢者とその介護者が参加し、セクターの垣根を越えてオープンに話し合う場を提供。エイジ・コレクティブ(現在は「エイジフレンドリー・ミュージアム・ネットワーク」と改名)は大英博物館が主導するパートナーシップであり、ミュージアムが高齢者の人々により開かれた場になることを目指している。

Treasure Box 「宝箱]

認知症の人々とその介護者向けに組み立てられたモンテッソーリ教育に基づくプログラム。これはマンチェスター博物館のアウトリーチ活動の一環をなし、同博物館の貨幣コレクションのオブジェやイメージを取り込んだ対話型の活動になっている。

Whitworth Art Sense「ウィットワース美術館アートセンス]

認知症患者とその介護者のために作られた、同美術館のコレクションを活用した無料のiPad用アプリで、さまざまな「感覚」を刺激したり、会話を促したり、気持ちがアクティブになるように設計されている。



視察プログラム参加者

エスメ・ウォード | Esme Ward

マンチェスター大学 ウィットワース美術館/マンチェスター博物館 ラーニング&エンゲージメント部門長

マンチェスター大学付属のウィットワース美術館/マンチェスター博物館でラーニング&エンゲージメント部門長を務め、あらゆる年齢の来館者を対象にした創造性を促す参加型プログラムを統括している。小中高含め様々なレベルで先生を務めた経験を持ち、現在はマンチェスター大学修士課程のクリエイティブ・ラーニング科目において教鞭もとっている。高齢者の介護、創造性、ウェルビーイングにおいてミュージアムや文化芸術が重要な役割を果たすとの信念のもと、マンチェスター市の「エイジフレンドリー・シニア・ストラテジー・グループ」の文化担当として、マンチェスター全域の文化組織において高齢者によるプロジェクトや高齢者を対象にしたプロジェクトの開発に取り組む。また大英博物館、グラスゴー・ミュージアム、北アイルランド・ナショナル・ミュージアムとともに「エイジフレンドリー・ミュージアム・ネットワーク」をたちあげ、英国全土でミュージアムを高齢者にやさしい場にしていくことを働きかけている。







Manchester Camerata

www.manchestercamerata.co.uk

RNCM, 124 Oxford Road, Manchester, M13 9RD

マンチェスター・カメラータ

▼ 1972年に創立されたマンチェスター・カメラータは、トップクラスの音楽家によるダイナミックなパフォーマンス、優れたアーティストとのコラボレーション、そして音楽によって人間性、社会性を育む先駆的なラーニング・アンド・パーティシペーション・プログラムで知られる英国有数の室内管弦楽団である。その常に革新的なアプローチは、音楽、オーケストラの可能性を拡張してきた。現在ハンガリーの偉大な音楽家、ガボール・タカーチョナジが、4期目となる音楽監督を務め、才能豊かなバイオリニスト、アディ・ブレットがコンサートマスターを担う。

その先駆的なラーニング・アンド・パーティシペーション・プログラムでは、「Children and Young People in School(学校にいる子ども、若者)」、「Health and Wellbeing(健康と福祉)」、「Youth Programme(若者プログラム)」の3つのテーマを掲げ、コンサートをはじめ、次世代とのコラボレーションや認知症の人の生活の質の向上など、さまざまな方法で人々との結び付きを深める活動を展開している。ight o



実施事業

Music in Mind [ミュージック・イン・マインド]

自宅または介護施設で暮らす認知症の人とその介護者を対象にした先駆的プロジェクト。参加者は、音楽療法士やオーケストラ演奏者と共に、創造的な音楽作りに取り組む。本プロジェクトでは、以下の成果を目標としている。

- 認知症の人とその介護者の生活の質の向上
- 認知症の人とその介護者の関係性の構築または再構築
- 音楽活動を日々のケアに取り入れることでケアの質を高め、薬の使用を減らす
- 新たなケアの手法としての創造的な音楽活動の可能性を提示する

パートナーであるコベントリー大学、マンチェスター大学、ニュー・エコノミー・マンチェスター(経済シンク タンク)と共同で行われるプロジェクトの研究および評価活動は、単にその効果やインパクトを報告するだけでなく、プロジェクトと並走して得られた知見が継続的にプロジェクト本体にフィードバックされ、現場の方針策定などに役立てられている。

連携機関には、エイジ・フレンドリー・マンチェスター、アルツハイマー協会、マンチェスター大学、テームサイド・パブリック・ヘルス、ロッチデール社会的投資ファンドがある。

本プロジェクトと並行して、マンチェスター大学およびランカスター大学と共同で、エコノミック&ソーシャルリサーチ・カウンシルが支援する「PhD CASE Studentship(博士研究のための奨学金)」を受けたプログラムに取り組んでいる。このプログラムは、認知症の人が音楽に触れた時、脳内でどのような反応や変化が起きるかをリアルタイムで計測する多感覚音楽評価ツールの制作を目的としており、実現すれば世界初、そしてそれは同時に新たな研究分野の始まりともなる。

http://www.manchestercamerata.co.uk/learning/health/dementia

https://www.youtube.com/watch?v=IqD5PHZ6JDQ

Portraits of Place [若年性認知症 — ポートレーツ・オブ・プレイス]

若年性認知症の人とその介護者のための、創造的な音楽とビジュアルアートのプロジェクトで、アイデンティティ、場所、そして自己の意識や感覚を探る。

参加者は、自分の想いや感覚を反映した音楽、歌、ビジュアルアートコラージュを創作し、その作品は一般 公開される。このプロジェクトは、認知症の人を、診断結果で定義するのではなく、一人の芸術家として再 定義することを目的としている。

Music Cafe 「ミュージック・カフェ]

アルツハイマー協会との試験的プロジェクト。地域の認知症の人とその介護者を対象に、定期的な創造的音楽制作セッションを12カ月にわたって24回実施するというもの。これは通常の「メモリー・カフェ」(認知症の人と介護者が、同じ体験を持つ人と交流し、情報を共有する場)に代わるものとして試験的に行われ、多くの人が自分のニーズに「メモリー・カフェ」が合致していないと感じていること、ネガティブな印象を持っていることから始められた。

Digital Orchestra [デジタル・オーケストラ]

ウィットワース美術館との共同で実施した試験的プロジェクト。支援住宅に住む高齢者が、iPadとデジタル 技術を使って、新しい音楽やビジュアルアートを制作した。

What I used to do 「私がしていたこと」

マンチェスターの介護施設に居住する人のための創造的プロジェクトで、居住者が現役で働いていた頃の人生を振り返るプログラム。グループで人生についての歌を作って録音し、施設内でインフォーマルな発表会を開催した。

http://www.manchestercamerata.co.uk/learning/health/age-friendly

https://www.youtube.com/watch?list=UUoIPt9LGX5q d2STyMpr60g&t=10&v=WBf6TNjVK18

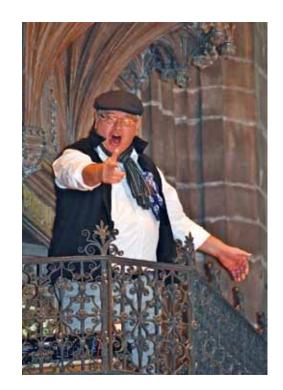




ニック・ポンシロ | Nick Ponsillo

マンチェスター・カメラータ ラーニング&パーティシペーション部門長

2008年よりプロジェクト・マネージャー、2010年より現職。コミュニティにおける楽団の活動の総責任者となる。 ラーニング・アンド・パーティシペーション・プログラムは、参加者主導の創造的体験を重視し、あらゆる年齢層のさまざま人々を対象に人間性、社会性を育むことを目的としている。マンチェスター・カメラータに加入する以前には、ハダースフィールド大学で音楽を学び、大学の非常勤講師やパフォーマーとして働いたほか、人造大理石職人としてヘイルズ・アンド・ハウ社(装飾施工業社)で室内装飾制作を経験した。国民保健サービス・ノースウェスト研究開発部門 (NHS Northwest R&D)のメンバーであり、マンチェスターの音楽教育ハブ (Manchester Music Education Hub: 通称My Hub) の戦略委員会の一員でもある。







Entelechy Arts

www.entelechyarts.org
The Albany, Douglas Way, London, SE8 4AG

エンテレキー・アーツ

▼エンテレキー・アーツは、ロンドン南東の地域社会に深く根付いた参加型アートプロジェクトを展開する団体である。過去25年間、幅広い年齢の様々な人々との活動を通して、人生に変化を起こすような独自の手法を培ってきた。「聴くこと」や「共感すること」に重きを置き、そこから芸術的な表現を導き出すエンテレキーの手法は、地域社会で孤立しかねない人々をつなぎ、創造的なエネルギーを解き放つものとして、英国内で高く評価されている。社会から取り残された個人やグループが、市民としてのつながりを再考する上で、芸術は中心的役割を果たすという信念のもと、①長期的な病気や複雑な障害を抱える若者、②重度の複合的な障害を抱える成人、③学習障害また高齢化に伴う障害のある高齢者(85歳から100歳まで)に向けた活動を行っている。グループの家族、友人、近隣住民といった支援者と共に、パブリックスペースや教会、学校、介護施設、文化施設、サッカー場などでプロジェクトを行っている。エンテレキーは3人の中心メンバー(非常勤)とアソシエイトおよびセッション・アーティストからなる小規模な組織で、大勢のボランティアとともに活動を行っている。▲



実施事業

Meet Me at the Albany $[\xi - h \cdot \xi - \cdot r y h \cdot f \cdot f - h r]$

基礎疾患がある孤立した虚弱な高齢者のニーズに焦点を当てたプログラム。

http://www.meetmeatthealbany.org.uk

http://issuu.com/artscouncilengland/docs/create digital singles v1/16

Little Boxes of Memories 「リトルボックシズ・オブ・メモリーズ」

ブラジルの高齢者芸術団体カーサ・ダス・ファジズから発想を得て、ロンドン博物館と協力して企画した朗 読プロジェクト。病棟・居住介護施設暮らし、一人暮らしの高齢者が重度障害を持つ子どもたちに話を聞 かせた。

http://www.littleboxes.org.uk

Home Sweet Home [ホーム・スウィート・ホーム]

フリーダム・スタジオとともに企画。英国における高齢者の体験や願望を探究する演劇作品。この作品は「現代の英国において年を取るとはどのようなものか」という問いを私たちに投げかける。

http://www.freedomstudios.co.uk/projects/past-projects/home-sweet-home/

Big Chair Dance [ビッグ・チェア・ダンス]

サウスバンク・センターとイースト・ロンドン・ダンスとのパートナーシップにより、孤立して暮らす250人の 高齢者が4つのダンスを演じた。

記録映像:https://vimeo.com/20917733

21st Century Tea Dance Programme [21世紀の午後のダンスパーティ・プログラム]

孤立した高齢者たちが主催する大規模なパフォーマンス/キャバレーイベント。

http://www.campaigntoendloneliness.org/wp-content/uploads/21st-Century-Tea-Dance.pdf



デービッド・スレイター | David Slater



スタート。そのプロジェクトを通して、学校やコミュニティ、高齢居住者の関係を構築していく上でアートが機能する ことを体験し、グルベンキアン財団の支援を受けてプリマス・アーツセンターで2年間にわたり参加型アートプロジェ クトを担当する。1980年代には、ロザーハイド・シアター・ワークショップの創設ディレクターとして、南ロンドンの公 営住宅団地の若者とその家族が参加する大規模な演劇プログラムを実施。この活動では3世代にわたる家族が演劇 制作を通して、社会・経済の変動がもたらしたドックランズ地域の分裂について表現した。1990年に保健機関の支援 を受けエンテレキー・アーツを設立。アーティストを招き、学習障害のある人々が長期保護施設に収容後、再び地域 社会と繋がるための支援を医療従事者やケアワーカーとともに行った。25年以上続くこの活動は発展を遂げ、今で は孤立した高齢者など社会から取り残された幅広い層にも対応している。普段アートに接する機会のない人々、医 療・ケアワーカーチーム、大きなアート機関、小さな地元組織の間でコラボレーションを促進しながらプロジェクトを 進めていくことを得意とし、代表的なプロジェクトとしてサウスバンク・センターとイースト・ロンドン・ダンスと組んだ 『ビッグ・チェア・ダンス』が挙げられる。この作品では孤立して暮らす250人の高齢者が4つのダンスを演じた。ロン ドン博物館と共同制作した『リトルボックス』は、病棟・居住介護施設暮らし、一人暮らしの高齢者が重度障害を持 つ子どもたちに話を聞かせる多感覚に訴える朗読プロジェクトである。







Sadler's Wells

www.sadlerswells.com Rosebery Avenue, London, EC1R 4TN

サドラーズ・ウェルズ

▼世界有数のコンテンポラリー・ダンス劇場として知られるサドラーズ・ウェルズは、ロンドンにある3つの劇場で年間を通じて、タンゴからヒップホップ、バレエ、フラメンコ、ボリウッド、最先端のコンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるダンス・プログラムを上演し、世界最高レベルのダンスを観客に提供している。また、ダンスの新作を委嘱、プロデュースし、自らの劇場で公演するのみならず世界各地の主要ホールでのツアー公演に送り出している。2005年以降、80本の新作を生み出している。

ダンスがより時代に即した形で発展することを支え、意義深く豊かなものにすることで、ダンスに親しみ、理解が深まることを目指している。そして、アーティストと刺激的な新しい作品の創作を支援することで、ダンスという芸術分野の発展に努めている。

またこれまで、最高レベルの芸術性と世界有数のリソースが支える刺激的な学びの機会をできる限り多くの市民に提供できるよう、創造的な取り組みを続けている。運営面では非営利組織(charity)として、多様な収入源を維持することで、財政的安定の確保に努めている。▲



Lilian Baylis [リリアン・ベーリス]

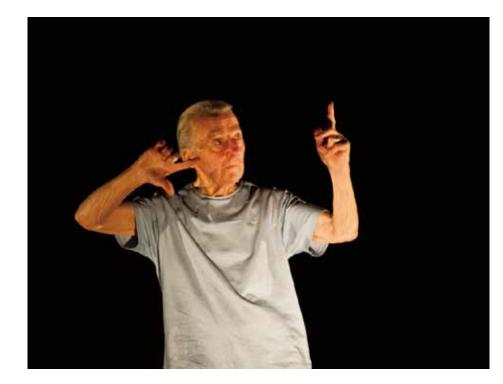
30年間続く、サドラーズ・ウェルズが運営する60歳以上を対象とした芸術クラブ。登録者数は140名、週に1度の集まりには毎回平均40~60名が参加し、芸術、特にダンスについて学び、議論と実践を行っている。

Company of Elders [カンパニー・オブ・エルダーズ]

63~92歳のメンバーで構成されるダンス・カンパニー。有名振付家によるダンス作品を、地域ベースの小劇場から国際的な劇場まで、大小さまざまな舞台で公演している。同カンパニーはテレビのドキュメンタリー番組でも何度も紹介され、世界各国をツアー公演し、ベネチア・ビエンナーレなどのフェスティバルにも参加した。また、彼らに触発され、全英に数多くのダンス・カンパニーが設立されている。ダンスに参加したい、創造的な活動がしたい、身体能力を高めたいと望む高齢者に向けた一般参加型のクラスを、2つの拠点で毎週開催している。

Elixir Festival [エリクシール・フェスティバル]

サドラーズ・ウェルズが2年に一度開催する高齢ダンサーのためのダンス・フェスティバルで、国際会議も行われる。500名以上の高齢ダンサーが参加し、全ての公演、そして会場内のパブリック・スペースが活気に満ち溢れる。現在フェスティバルの評価報告レポートを準備している。



ジェーン・ハケット | Jane Hackett

サドラーズ・ウェルズ クリエイティブ・ラーニング部門 プロデューサー兼芸術プログラム担当

メインステージおよびスタジオ・コミュニティで上演される作品の制作、アソシエイト・アーティストとつくる創造的な学びのプロジェクト、および60歳以上を対象としたプログラムを統括している。これまで、ダンサー、振付家、ライター、プロデューサーとして、地域ベースの小劇場から国際的な劇場やオペラハウスまでさまざまな場で仕事をしてきた。指導者、ワークショップ・リーダー、ドラマトゥルクとして豊かな経験を持つ。また、アーティスト、ライター、作曲家、映像制作家と共同でジャンルを横断したアートプロジェクトを多数手がけている。著作も出版されており、ロイヤル・ソサエティ・オブ・アーツの会員で、過去6年間は英国ダンス協会「Dance UK」の副会長を務めた。また、ウィンストン・チャーチル記念財団のフェローに選ばれ、チリ、メキシコ、そしてキューバに滞在し、高齢者の健康と福祉にダンスがもたらす効果を研究した。高齢者とのコラボレーションは20年以上前にさかのぼり、ケアホームでのプロジェクトや多世代が関わる公演プロジェクトに端を発する。現在は、カンパニー・オブ・エルダーズのディレクターを務め、生涯尽きることのない創造性と、高齢アーティストの意欲的な参画を賞賛する『エリクシール・フェスティバル』をプロデュースしている。







Wigmore Hall

www.wigmore-hall.org.uk
36 Wigmore Street, London, W1U 2BP

ウィグモア・ホール

▼ウィグモア・ホールは、ロンドンのウェストエンドに位置し、室内楽、器楽、古楽、声楽を専門とする世界有数のコンサートホールである。間もなく誕生115年を迎える同ホールでは、年間450以上のコンサートが開催されており、世界的人気を誇るソリストや室内楽演奏家が、ルネサンスからコンテンポラリージャズ、そして新しい委嘱作品に及ぶさまざまなレパートリーを演奏している。また、優れた若手アーティストや作曲家のためのショーケースも行っており、若手音楽家の成長に欠かせない場を提供している。

また、高い評価を得ている教育プログラムは、革新的な創造プロジェクト、コンサート、イベント、オンラインリソースを通じて、幅広く多様な聴衆に提供されている。ウィグモア・ホール、および学校、保育園、病院、コミュニティセンター、介護施設で、年間で450以上行われるイベントとワークショップを通じ、人々と音楽の新たなつながりを生み出している。▲



実施事業

Music for Life [ミュージック・フォー・ライフ]

介護施設やデイケア施設で認知症と共に生きる人々と、その介護者のためのインタラクティブな音楽ワークショップ・プログラム。人間中心のアプローチをとり、プロの音楽家が8週間にわたり定期的に音楽ワークショップを行い、コミュニケーション、自己表現、対人関係構築を促す環境を提供する。音楽家は即興的手法を使いながら、認知症の人からさまざまなアイデアを引き出し、失われていない機能を足掛かりに、つながりを築くことを可能にする。同プロジェクトは、認知症の人と介護者が、お互いを対等な個人として認識し、新しい視点で見つめ直す機会にもなり、関わる全ての人々に持続的な好影響をもたらしている。また同プロジェクトは、プログラムを実施する音楽家の育成、介護スタッフのスキル向上も重視している。プログラムに参加した介護施設では、介護スタッフが自らの仕事を振り返り、認知症の人と、人と人のつながりを持つことについて理解を深めることで、長期的な良い変化につながっている。また各プロジェクトに認知症専門家が携わり、プロジェクトの体験を通してケアスタッフが自身のケアを再評価する手助けも行っている。

現在、主にロンドンで展開されているこのプロジェクトは、フリーランスのプロの音楽家と認知症専門家と共同で実施している。2013年から2014年にかけては、130人以上の認知症の人々がプログラムに参加した。同プロジェクトは、ジューイッシュ・ケア、ウェストミンスター・アダルト・サービス、その他ロンドンの医療サービス機関からも委託されている。また現在、バーミンガム市交響楽団と新たな協力関係を結び、ウェスト・ミッドランズ地域へのプログラムの拡大を進めているところである。『ミュージック・フォー・ライフ』は、広範な研究の対象にもなり、その結果オランダの2つの教育機関で新たな教育課程が開発された。また、ロイヤル・ソサエティ・フォー・パブリックヘルスから、芸術と保健活動への優れた貢献によって、特別賞を授与されている。

『ミュージック・フォー・ライフ』は、1993年にリンダ・ローズによって立ち上げられ、現在はジューイッシュ・ケアをケアと開発の主要パートナーに迎え、ウィグモア・ホールの教育プロジェクトの一環として実施されている。

www.wigmore-hall.org.uk/musicforlife

その他のイベント

- ◎認知症の人とその介護者に開かれたプロジェクトを、王立音楽アカデミーおよびウェストミンスター・アーツと共同運営している。毎春、ウィグモア・ホールで6週間にわたって開催し、参加者は協力しながら音楽を作り、詩を共有し、楽器に触れ、既存のレパートリーを習い、最後にステージに立ち、CD録音を行う。また参加者はウィグモア・ホールのコンサートにも招待される。
- ◎毎年、認知症と共に生きる人とその家族、友人、介護者のために企画されたコンサートを開催している。 昼間の短い時間、プロのアンサンブルがリラックスした雰囲気の中でレパートリーを演奏する。
- ◎認知症フレンドリーなホールになることを目指し、案内係・接客スタッフに対する研修を行っている。認知症の人をVIPとして歓迎するコンサートシリーズを開催したいと考えている。
- ◎認知症と共に生きる人との活動に関心のある音楽家のために、公開のトレーニングを行うほか、アンサン ブルやオーケストラのために、それぞれにデザインされたトレーニングを提供している。



視察プログラム参加者

ケイト・ウィテカー | Kate Whitaker

ウィグモア・ホール 教育部門 『ミュージック・フォー・ライフ』 プロジェクトマネージャー

リーズ大学で文学士号(音楽、哲学)および音楽修士号(音楽テクノロジー、コンピューター音楽)を取得後、ロンドンに移り、ウィグモア・ホールに勤務。入院中の若者、自閉症スペクトラムの子ども、難民および難民申請者などを対象として教育プログラムを運営し、ウェストミンスターの貧困地域でのコミュニティ合唱団にも携わっている。現在は音楽プロジェクト『ミュージック・フォー・ライフ』の責任者として、プログラム開発と実施チームのトレーニングを指揮する。また並行して心理学を学び直し、2014年、ロンドン大学教育研究所(UCL Institute of Education)で科学修士号(児童発達)を取得。未来展望に関する学位論文で、プラケシュ・デ・シルバ賞最優秀賞(Prakesh De Silva Award)を受賞した。ロンドン大学バークベック・カレッジの脳・認知発達センターで非常勤研究員を務め、ダウン症とアルツハイマー病の関連を調べるプロジェクトにも携わっている。ヨーロピアン・レミニセンス・ネットワークの実習を修了しており、認知症擁護者(Dementia Champion)でもある。また現在、英国手話を学んでいる。打楽器奏者としても自身のアンサンブルで活動しており、これまでブライトン・ドーム、ロイヤル・フェスティバル・ホール、ロイヤル・アルバート・ホールなどで演奏をしてきた。近年の特筆すべき活動に、2012年のロンドンオリンピック開会式での演奏や、サウスバンク・センターでのウーマン・オブ・ザ・ワールド・オーケストラとの共演がある。







Arts for Health Cornwall and Isles of Scilly

www.artsforhealthcornwall.org.uk
Unit 7, Jubilee Wharf, Commercial Road, Penryn, Cornwall,
TR10 8FG

アーツ・フォー・ヘルス・ コーンウォール・アンド・アイル・ オブ・シリー

▼2001年の設立以来、英国有数の芸術・保健機関として、創造力を通じた健康と福祉の向上に尽力している。多岐にわたる創造的プロジェクトを企画し、訓練を受けた創造活動の実践者やボランティアと協力して、コーンウォールとシリー諸島の人々に芸術を届ける。特に、高齢者および認知症の人々の健康と福祉を、芸術を通して向上させることに重点を置く。

2010年3月には「グラクソ・スミスクライン/キングズ・ファンド・インパクト・アワード」を受賞。選考委員は「小規模な組織ながら、多数の利用者を擁し、活動成果は高水準。リーダーシップを有するダイナミックな機関であり、特に要介護高齢者、認知症患者、ホームレスの人々との活動は革新的である」とその活動を高く評価した。

2009年には、介護・入所施設、デイケア施設、病院など、高齢者介護が行われている場所に芸術を結びつけた活動が評価され「ガーディアン公共サービス・アワード」を受賞。以来、病院、介護用住宅から個人宅に至るまで、数多くの刺激的なプロジェクトを通じて、高齢者との活動を進化・発展させ続けている。▲



実施事業

Home Service 「ホーム・サービス]

コーンウォール全域の介護施設で暮らす高齢者にアートを届けることに主眼を置く。アートと介護の領域で活動する数多くのパートナーと協力し、多岐にわたる創造的活動を提供。これまで、食事での会話を促進するカップとソーサーを作るビジュアルアート・プロジェクト、介護施設入居者とその家族や介護者が参加するダンス・プロジェクト、入居者の過去の職業にまつわる物語をキャバレー・パフォーマンスとして表現する文学プロジェクト、入居者がさまざまな手法でランチョンマットを作る工芸プロジェクトなどがある。その他にもプロジェクトが進行中で、新たなプロジェクトも開発中である。入居者、介護者、活動パートナーからの反応はとても前向きである。

http://www.artsforhealthcornwall.org.uk/projects/home-service

Celebrating Age and Ambition [セレブレイティング・エイジ・アンド・アンビション]

2010年の1年間にわたり、コーンウォール全域の高齢者が、さまざまな創造的活動に参加した。主な活動には、ビジュアルアートや文芸ワークショップ、在宅介護を受ける人との1対1の活動、そしてコーンウォール初の50歳以上の人のためのダンス・カンパニーなどがある。同プロジェクトの全体テーマは「年齢と大望を祝福すること」。

集大成はペンザンスのエクスチェンジ・ギャラリーで2日間にわたって開催されイベントで、コーンウォールの 高齢者の才能が披露された。2013年6月、同プロジェクトの、高齢者と創造的に活動する、その革新的で 熟慮されたアプローチが評価され「アーツ・アンド・ヘルス・サウスウェスト・アワード」を受賞した。

http://www.artsforhealthcornwall.org.uk/projects/celebrating-age-and-ambition

Memory Cafes [メモリー・カフェ]

メモリー・カフェは、認知症の人と介護者が、同じ体験を持つ人と交流し、活動に参加し、支え合い、情報を共有することができる場所である。全てボランティアによって運営されている。

2011年から2012年まで、コーンウォール全域のメモリー・カフェと協力し、トレーニングを提供するとともに、さまざまな創造活動を支援した。また創造活動の実践者に依頼し、カフェで可能な創造的な活動を知り、気軽に体験できるテイスター・セッションを実施した。

http://www.artsforhealthcornwall.org.uk/projects/memory-cafe-overview-2

Singing and Dancing for Health and Wellbeing

[シンギング・アンド・ダンシング・フォー・ヘルス・アンド・ウェルビーイング]

介護スタッフとボランティアが介護施設で歌とダンスを実践するためのアイデアや助言を2つのツールキット(手引書)にまとめた。介護の現場で高齢者と行ったいくつかのプロジェクトをふまえてつくられ、DVDと小冊子からなる。高齢者に参加を促すための発想、アイデア、アドバイスとともに、歌とダンスの効用についても紹介されている。

http://www.artsforhealthcornwall.org.uk/projects/singing-and-dancing-for-health-and-wellbeing-over view

Reading Allowed [リーディング・アラウド]

認知症の人が本を楽しみ続けられるよう、読み聞かせを行うプロジェクト。コーンウォール全域でボランティアを研修・支援し、認知症の人とのリーディング・アラウド・セッションをグループまたは1対1で行っている。http://www.artsforhealthcornwall.org.uk/projects/reading-allowed



視察プログラム参加者

ジェーン・ハワード | Jayne Howard

アーツ・フォー・ヘルス・コーンウォール・アンド・アイル・オブ・シリー ディレクター

2004年にディレクターに着任。以来、同機関は提供するサービスと支援の規模を急速に拡大してきた。キャリアの 初期をミッドランド地方の公共部門に勤務し、最初は中等教育の英語教師と演劇主任を務めた。その後18年間、国 民保健サービス (NHS) で、公衆衛生部長や児童サービス主任部長など、さまざまな責任ある役職を務め、指導的役割を担う。NHS在籍中、コーンウォールのヘルス・アクション・ゾーン・プログラムを率いる。これが、州内の創造力豊かな才能を活かし、医療格差問題に取り組む独立機関としてのアーツ・フォー・ヘルス・コーンウォール・アンド・アイル・オブ・シリーの設立の足掛かりとなった。準修士号(英文学)および文学修士号(20世紀の造形芸術)を有し、あらゆる芸術に情熱を傾け、特に文芸とパフォーミング・アーツに造詣が深い。仕事の特徴は、パートナーシップと協力を重視し、個人およびコミュニティの経験をより良いものにし、社会の不正や不平等に立ち向かうところにある。また、コーンウォール州の医療と社会ケアを推進する独立機関、ヘルスウォッチ・コーンウォールの議長も務めている。





Keele University

www.keele.ac.uk Keele, Staffordshire, ST5 5BG

キール大学

▼1949年にノース・スタッフォードシャー・ユニバーシティ・カレッジとして設立された。創設者は斬新な教育方針を掲げ、複数の分野にまたがる学際的学問の発展を目指した。スタッフォードシャー北部に位置する同校は敷地617エーカー(約11万㎡)に及ぶ英国最大規模の総合キャンパスを誇っている。同大学の理念は「地域・国内・国際レベルで社会・環境・経済的課題に積極的に貢献しながら、傑出した研究により高水準の教育経験を学生に提供すること」。キール大学創設の精神「友人とともに真実を追求する」を軸に、同大学は以下について重点的に取り組んでいる。

- 個人、コミュニティ、社会にとっての教育の変革力
- 教育の機会の平等
- 独立した研究と学問的探究を通じた知識の向上
- 環境面および経済面の持続可能性
- 全活動における高水準のサービスと経験の提供
- 平等と多様性に対する責任をもち、個人の権利・責任・尊厳を尊重すること
- 高潔さと倫理的行動の重視
- メンバー全員の健康への配慮

2014年に同大学は学生の満足度において英国1位を獲得。また最新のリ

サーチ・エクセレンス・フレームワーク (REF2014:研究評価制度) では、大学の97%の研究が世界トップレベルであり国際的に重要である判断された。▲

PROJECTS 実施事業

Centre for Social Gerontology [老年社会学センター]

1987年にキール大学に併設された老年社会学センターは、設立時から、高齢化と人の晩年についての社会的および批評的分析に焦点をあてた幅広いプロジェクトを実施してきた。

その成果は国際的にも知られている。

老年社会学センター:http://www.keele.ac.uk/csg/

研究プロジェクト:http://www.keele.ac.uk/csg/research/

現在進行中のプロジェクト

Ages and Stages project: http://www.keele.ac.uk/agesandstages/



ミリアム・バーナード | Miriam Bernard

キール大学 老年社会学センター長・教授

1970年代半ばにキール大学で英文学および地理学の複数専攻学位(副次テーマは心理学と地質学)を取得。異なる領域を横断し、社会科学的アプローチに文学や芸術の視点を統合して研究を進めている。高齢者との画期的な活動で知られる非営利団体で研究者としてキャリアをスタートし、実践と政策に結びついた研究を30年以上重ねている。長年にわたり、研究テーマとして高齢化に伴う女性の生活と世代を超えた関係に関心を寄せている。リサーチ・カウンシルやジョーゼフ・ラウントリー財団、国営宝くじ、アンカー・トラスト、エクストラケア・チャリタブル・トラスト、ヘルプ・ザ・エイジドなどの団体から資金提供を受けて幅広いプロジェクトを実施し、現在はリーバヒューム・トラストの支援を受けた研究活動も行っている。2009年より、領域を横断した研究プロジェクト「Ages and Stages」を主導しているほか、これまでに多数の書籍や学術論文、研究報告書の執筆・編集に携わっている。英国老年社会科学会の会長を務めた経験も持ち、学術誌『ジャーナル・オブ・インタージェネレーショナル・リレーションシップス』とポリシープレス社の『高齢化と人生の進路シリーズ』の編集委員も務めている。







ベアリング財団

▼ 1969年に設立された民間の助成団体であるベアリング財団は、差別や社会的弱者に関わる課題にアプローチし、成熟した市民社会を形成することを目的に活動している。

3つの主要プログラム分野

- ●英国における文化芸術と高齢者
- イングランドとウェールズにおける法律と人権の適正な行使
- サハラ以南アフリカにおける性的少数者の権利向上

現在、年間200~300万ポンド(約3億5,500万~5億3,300万円)の資金提供を行うほか、他の団体と共同で助成プログラムも実施している。▲

PROJECTS 実施事業

英国の4つのアーツ・カウンシル(イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド)と共同で、 英国全土の文化芸術団体やアーティストによる高齢者を対象にした取り組みを支援している。また、ウィン ストン・チャーチル・メモリアル・トラストと連携し、高齢者を対象にした文化芸術活動について、英国の文 化関係者による海外事例調査を支援している。

これまでに約50の団体やプロジェクトに助成を行ってきた。最新の助成プログラムである『Late Style (レイト・スタイル)』では、70歳以上のアーティストに作品を委嘱した。こうした助成プログラムのほか、ツールキット、調査報告書や実践事例の公開、カンファレンスやセミナーなどを開催している。

http://www.baringfoundation.org.uk

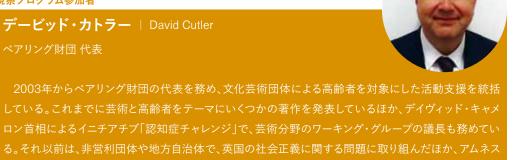
同財団の委託で運営されているAge of Creativityのウェブサイトでは、芸術と高齢者に関する情報が多く紹介されている。

Age of Creativity http://www.ageofcreativity.co.uk

デービッド・カトラー | David Cutler

学び、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで公共政策を学んだ。

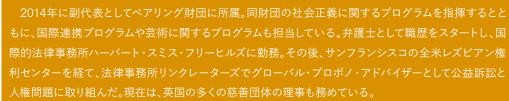
ベアリング財団 代表



視察プログラム参加者

デービッド・サンプソン | David Sampson

ベアリング財団 副代表



視察プログラム参加者

ケイト・オーガン | Kate Organ

ベアリング財団 芸術アドバイザー

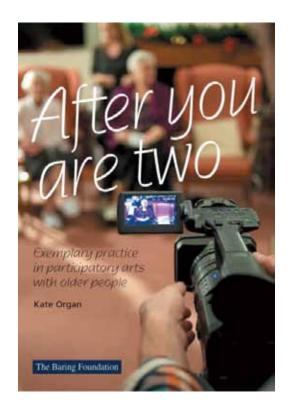


バーミンガム大学で演劇とフランス語を学び、卒業後は俳優、演出家、演劇の講師、フェスティバル・ ディレクターとして活動したほか、幅広い分野の芸術助成プログラムの政策立案にも関わった。2008年か ら、ベアリング財団の芸術アドバイザーとして、高齢者を対象とした文化芸術団体の活動を支援する助成 プログラムや、戦略的イニシアチブに取り組んでいる。その他、多くの団体の文化芸術プログラムにも関 わっている。最近のプロジェクトとしては、イングランド全域の小学校で、教育現場における「唄うこと」の 大切さを見つめ直すプログラム「ナショナル・シンギング・プログラム」にも関わった。現在、ベアリング財 団がアーツ・カウンシル・イングランドと共同で実施している助成プログラム「Arts and Older People in Care (介護施設の高齢者のための芸術プログラム) | や、70歳以上のアーティストに12の芸術作品を委嘱 した助成プログラム「Late Style(レイト・スタイル) | にアドバイザーとして関わっている。高齢者を対象に した参加型の芸術プログラムの実践をまとめた小冊子『After You Are Two』も執筆している。

ティ・インターナショナル英国支部やブリティッシュ・インスティテュート・オブ・ヒューマン・ライツをはじ

めとする多数の非営利団体の理事、さらにいくつかの公共団体の非業務執行理事も務めた。現在、BBC のチャリティー・アピール・コミッティにも参加している。オックスフォード大学で、政治学、哲学、経済学を

http://baringfoundation.org.uk/wp-content/uploads/2013/09/AfterYAT.pdf







Calouste Gulbenkian Foundation (UK Branch)

www.gulbenkian.org.uk
50 Hoxton Square, London, N1 6PB

カルースト・グルベンキアン財団

▼カルースト・グルベンキアン財団は、文化、教育、社会、科学などの助成を目的として1956年にポルトガルで創設された。本部をリスボンに置き、ロンドンとパリに支部がある。英国支部は、国や地域、学問分野、産業分野などの領域を越えて知識や経験を共有し、社会的、文化的、環境的価値をもたらす関係を築くことにより、とりわけ弱い立場にある人たちを長期にわたって支え、状況を改善することを目的としている。▲



実施事業

《芸術プロジェクト》

Sharing the Stage [シェアリング・ザ・ステージ]

高齢者福祉の改善を目的とした、参加型パフォーミングアーツの新しいモデルを探求するR&D(研究開発) プロジェクト。

パートナー組織: アートエンジェル、ヴァイタルアーツ、 セントルークス・コミュニティセンター、 エイジ UK イズリントン

高齢期に一人になり、料理などの基本的な生活能力を持たない男性の生活改善を目的としている。アートエンジェルは、演出家の協力を得て、料理を学びたい70歳以上の男性のための料理学校を開校。演出家もプロジェクトに関わり、料理のワークショップをより直接的な感情表現のプロセスにつなげ、公の場でのパフォーマンスに発展させる。パフォーマンスでは世界的に活躍する俳優が料理学校の生徒たちと共演し、彼らの個々の物語や経験、個性に基づいた作品を上演する。

パートナー組織: エンテレキー・アーツ、アップスウィング、ザ・アルバニー、 ARC、ルイシャム・ロンドン特別区

孤立した高齢者たちが共同で脚本を書き、演じる大規模な舞台作品の基盤をつくるR&Dプロジェクト。孤立した高齢者らを、サーカスのアーティスト、詩人、作家、デジタル・アーティスト、プロデューサー、保健関係者、映画制作者などと出会わせ、創造的なラボラトリーを作り出すことを目指す。これら多様な人々のグループは、人が晩年に経験する不安や変化などに関する問題を探求し、孤立した高齢者のさまざまな経験を伝える方法を探っている。本プロジェクトは、社会福祉や保健、芸術分野が相互に影響を与え、新たな交流を生み出すことを目的としている。

パートナー組織:ジェラルディン・ピルグリム・カンパニー、ザ・ピール・インスティテュート、 ノヴァク、キャサリン・ロウ・セトルメント

社会一般や芸術分野の人々の高齢者に対する見方に変化をもたらすことを目的としている。複数団体が連携し、幸福な思い出や年を重ねるにつれて経験する変化をテーマに作品を制作し、劇場や介護施設、コミュニティセンターなどへ公演を巡回させることを目指している。



イザベル・ルセーナ | Isabel Lucena

カルースト・グルベンキアン財団 プログラムマネージャー



カルースト・クルベンギアン財団の英国支部が実施する参加型パフォーミングアーツプロシェグト「シェアリング・ザ・ステージ」を担当。以前は、ポルトガルの美術や文学を英国に広めるプログラムなど、異文化理解をテーマとする活動を担う。1987年より英国在住。財団に勤務する前は、ポルトガルの出版物や国営ラジオ放送局におけるアート部門の特派員を務めていた。





Arts Council England

www.artscouncil.org.uk
21 Bloomsbury Street, London, WC1B 3HF

アーツ・カウンシル・イングランド

▼「あらゆる人に素晴らしい文化芸術を(Great Art for Everyone)」をミッションに掲げ、人々の生活を豊かする文化芸術活動を推進、支援する。支援先は文化機関、ミュージアム、図書館など多岐に渡り、その活動は演劇から、デジタルアート、読書、ダンス、音楽、文学、工芸、コレクションまでさまざまである。2010年から2015年まで、政府からの公的資金19億ポンド(約3,399億円)と国営宝くじの収益金およそ11億ポンド(約1,968億円)を文化芸術に投資し、英国中の多くの人々が豊かな文化的体験を享受できるよう支援を続けている。▲



Arts and older people in care — a partnership between Arts Council England and the Baring Foundation [介護施設の高齢者のための芸術活動 — アーツ・カウンシル・イングランドとベアリング財団が共同で運営している助成プログラム]

高齢者を対象とした文化芸術機関による取り組みを強化することを目的に、アーツ・カウンシル・イングランドとベアリング財団が共同で運営している助成プログラム。助成総額100万ポンド(約1億7,900万円)の資金を投入し、3年にわたり実施される同プログラムの目的は、介護施設に入居する高齢者が、参加者または観衆として、質の高い芸術体験を享受できる機会を提供すること。介護施設と文化芸術機関がパートナーシップまたはコンソーシアムを組んで展開する事業を支援している。



フィリップ・ケーブ | Philip Cave

アーツ・カウンシル・イングランド エンゲージメント部門 ディレクター

「あらゆる人に素晴らしい文化芸術を」というアーツ・カウンシル・イングランドのミッションを実現するための戦略の策定に関わっている。現在「Creative people and places(創造的な人と場所)」や「Audience Focus(オーディエンス・フォーカス)」などの主要なプログラムを統括。またベアリング財団と共同で運営している助成プログラム「Arts and older people in core は 担当している



